

図画工作科 小校第5学年カリキュラム

| 月 | 単元・指導内容 | 学習指導要領の内容 | 時数 | 重点化の理由 | 下学年等での既習事項 | 円滑な接続への留意事項 | 上学年等での学習事項 | 備考 ■実践例、◆課題 |
|--------|--|---------------|---------|---|--------------------------------|---|---------------------------|---|
| 4 5 | 季節を感じて ・身近な生活の中で春を感じたものを工夫してかく | A (2) イ | 4 | | 小学校第4学年 「木々を見つめて」 | ○風景から発想する観察や経験に関わる題材。単に見たままに再現しようとする写生画ではなく、自分が感じた心の中の季節を形や色、構図を工夫して表すようにする。 | 小学校第6学年 「わたしのお気に入りの場所」 | ■事前に題材の趣旨に合致する作品や写真を鑑賞して話し合い、あらかじめ表したい物や琴などを見つけておき、五感を働かせて季節を感じる活動することから始めるようにする。 |
| 5 | 粘土に気持ちを込めて ・自分の気持ちを粘土で工夫して表す | A (2) イ | 2 | | 小学校第3学年 「ひみつの粘土王国」 | ○低・中学年で十分に味わってきている粘土がもつ可塑性の面白さに自分なりの価値や意味づけをして表すことがねらいとなる。ここで行う様々な技法を駆使した粘土の扱いが中学校での塑像表現の幅を広げ、抽象的なイメージを表す学習内容へつながっていくようにする。 | 中学校第1学年 「彫刻動物園」 | ■リラックスして自分の気持ちを向かわせるために、改めて粘土の感触を楽しませるような時間をもちたい。そのうえで生まれてくる形との出会いに製作への意欲を高められるようにする。 |
| 6 | 糸のこドライブ ・曲線切りした板を組み合わせながら、工夫して思いついたものをつくる。 | A (2) イ | 5 | | 小学校第3学年 「小さなはこのものがたり」 | ○中学年においては、手引きのこぎりで1枚の板を直線で切断することを習得してきたが、本題材では、曲線切りを習得することをねらいとする。中学校においても美術・技術科で電動糸のこぎりを使うので、ここで十分に習得しておくことが望ましい。 | 中学校第1学年 「お気に入りの囲まれて」 | ■一人一人が電動糸のこぎりですべて自由に切る楽しさを味わう経験を通して、新しい用具や表現方法に対する興味関心を高めるようにする。 |
| | めざせ、ローラーの達人 ・ローラーのいろいろな技を生かして表す。 | A (2) ウ | 2 +1 | 表現段階で児童が豊かな発想や構想をもとに主体的に活動するために今まで経験したことを思い起こさせたり実際に触らせたりする時間を取り、児童のイメージを広げる工夫をする必要がある。 | 小学校第3学年 「しょうかいします、わたしのだいすき」 | ○低学年で経験したローラー遊びや中学年で経験した様々な絵の具遊びのことを思い起こし、ローラーやマスキングでできる高学年らしい可能性を探りながら美しい画面作りを考えさせる。 | 中学校第1学年 「モダンテクニック」 | ■自由に使える絵に具の量とローラーを数を保障し、できるだけびのびと活動できる空間にする。また、教科書の作例により使い方の工夫を考えさせてから作品作りへ取り組む。 |
| 7 | 同じものたくさん ・集めた材料の形や色、場所の特徴から思いつき、工夫して活動する。 | A (1) イ | 2 | | 小学校第4学年 「だんボール、切って、つないで」 | ○低・中学年で操作しやすい材料で行う造形遊びの系列で、大量にある同じ形をしたものに注目して構成させる。同じ形のものや活動する場所の特徴に関わって美しさのある構成をしたり、場所を生かした特徴ある構成をしたりと高学年らしい活動を指導する。 | 小学校第6学年 「白い物語」 | ■「学校にたくさんあるものはなんだろう。」と投げかけて考えさせる。材料のある場所を考えることから活動場所にも目を向けさせる。 |

| 月 | 単元・指導内容 | 学習指導要領の内容 | 時数 | 重点化の理由 | 下学年等での既習事項 | 円滑な接続への留意事項 | 上学年等での学習事項 | 備考 ■実践例、◆課題 |
|----|---|---------------|----|--|--------------------------------|---|------------------------------|---|
| 8 | 見つけたことを ・絵をよく見て、見つけた り、感じたりしたことを話 し合う | B ア | 2 | | 小学校第4学年 「カードで味わう」 | ○浮世絵や空想的な絵画、具体物 が何も描かれていない抽象絵画 などを見る経験をすることで、 中学校美術の鑑賞へつなげてい くようにする。 | 中学校第2学年 「抽象から空間の表現へ」 | ■黒板に貼った掛図を見て話し 合うことから始め、教科書の話 し合う様子を参考にしながら見 つけたことを話し合う活動をする。 |
| 9 | 「そのば」くん登場 ・場所のおもしろさや特 ちょうから想像したことを 工夫してかく。 | A (2) イ | 4 | | 小学校第4学年 「まほうの力をもつ時計」 | ○ツールとしてのデジタルカメラ の使い方、及びその画像の生かし 方は、中学校美術の映像表現につ ながっていくので使い方につい てしっかり教えていくようにす る。 | 中学校第1年 「変化させる絵」 | ■何かが「顔」に見える経験を その代表的な例にして取り組 み、「顔」を見つけた場所の雰 囲気や役割、形や色から思いを 広げて絵に表していく。 |
| 9 | くるくる回して ・かんたんな仕組みを生か して、動くおもちゃを作 る。 | A (2) ウ | 4 | | 小学校第4学年 「パックパク」 | ○ペンチを使って針金で仕組 みを作ったり動く仕組みを生か したり飾りのおもしろさをつ くったりするなど発想や技法は 高学年なりの高度な内容である。 針金や工具の扱いなどを体験す ることを中学校技術科にもつな げていくようにする。 | 小学校第6学年 「動き出すストーリー」 | ■空き箱は収集した中から選ん だり、自分の考えに合う物を 探したりしながら決める。針金 を曲げる位置や揺れ棒の関係を よく考え、動かしながら |
| 10 | 葉っぱの美、発見 ・葉の形や色を味わいなが ら、絵にかくことを楽し む。 | A (2) ア | 2 | | 小学校第4学年 「木々を見つめて」 | ○観察や経験にかかわる題材 だが、葉っぱという主題を自分 が美しいと感じたように表し 方も自分で選んで絵に表すとい う高学年ならではの内容であ る。 | 中学校第2学年 「風景が語るもの」 | ■数種類の葉を示し、その形の 色のおもしろさ、美しさに気 づかせる時間を取り、活動に 取り組ませていくようにする。 |
| 11 | 重なると、だれが前、 どっちが後ろ ・「自分マーク」をもとに、 ものの重なりを利用して かく。 | A (2) ウ | 3 | | 小学校第4学年 「ぎゅうぎゅうつめこむと」 | ○自分マークをもとに、重なり や前後の関係、奥行きを表す 題材である。この発想を中 学校美術の遠近感や奥行き、 透視図法へとつなげていく。 | 小学校第6学年 「いろいろな見方で」 | ■教科書の作例から「重なり 遠近法」について確認させ、 自分の作品に活用させていく ようにする。 |
| 12 | そのときを形に ・アルミはりがねなどを使 って、しゅん間の動きを とらえてつくる。 | A (2) ウ | 5 | | 小学校第3学年 「靴下や手袋に魔法をかける と」 | ○高学年で必ず経験させるこ とになっている針金を主材料 として使った題材である。線 から形を作り上げたり線を面 として表したりすることは、 中学校美術の彫刻材料につな がっていくことを意識して指 導する。 | 中学校第1学年 「動きを見つめて」 | ■具体的な人や生き物を作る ことを提案し、皆で様々な情 景を想像して話し合わせてか ら活動に取り組ませる。 |
| 1 | 色を重ねて夢を広げて ・色が重なっていくことか ら思いついたことを工夫 して木版に表す。 | A (2) イ | 6 | 作品を見たりそこに表れて いる発想や工夫を話し合っ たりすることで説明的に表 すよりも自分の心で感じ取 った雰囲気を自分の感じた 形や色で表現することの大 切さに気づかせていく必要 がある。 | 小学校第4学年 「ほると出てくるふしぎな 花」 | ○木版画の系統で、中学年 より彫り進む技法や重ねる 技法がより高度になっている。 この題材で彫刻刀の安全な 使い方や須利の技法を習得 させ、中学校美術の班表現 につなげたい。 | 小学校6学年 「うつつで見つけた私の世 界」 | ■刷り重ねる前と後の違い を考えさせたり予想させたり することの中で刷り重ねる ことのよさを感じ取らせ、 作品づくりに生かしていく ようにする。 |

| 月 | 単元・指導内容 | 学習指導要領の内容 | 時数 | 重点化の理由 | 下学年等での既習事項 | 円滑な接続への留意事項 | 上学年等での学習事項 | 備考 ■実践例、◆課題 |
|---|---|---------------|----|--------|-----------------------------|---|---------------------------|---|
| 2 | <p>ビー玉、大ぼうけん</p> <p>・身の回りの材料で、ビー玉が楽しく転がるおもちゃを作る。</p> | A (2) ウ | 4 | | 小学校第4学年 「つくって、つかって、楽しんで」 | ○ビー玉が転がるだけでなく、楽しいしかけや意外なしかけ、見て美しい形など高学年らしい工夫が生きる題材である。仕組みを生かす形の工夫などは、中学校の美術や技術の入口になっていくものと考えられる。 | 小学校第6学年 「強くてやさしい組木パズル」 | ■教科書の作例にはどれも物語があることに気づかせ、そこから材料の特徴やしかけの工夫につなげられるようにして活動に取り組みさせる。 |
| 3 | <p>伝えたい気持ちを箱に</p> <p>・箱を使って、気持ちが伝わるように作って楽しむ。</p> | A (2) ア | 4 | | | ○伝えるという発想では、低学年で「えてがみ」中学年で「カード」などを体験しているが、ここでは、箱の外と中に伝えたいメッセージを展開させるという高度な内容になっている。形や色による伝達は、中学校美術のデザインへとつながっていくことを意識して指導するようにする。 | 小学校第6学年 「伝え方を楽しもう」 | ■教科書の紙面を見せることでイメージをつかませ、学習と学習の間に構想を練ったり、材料を集めたりしながら進められるようにして活動させる。 |
| | 合計 | | 50 | | | | | |